

09 両ダンゴ(ダンゴの共エサ)の宙釣り

両ダンゴ(ダンゴの共エサ)の宙釣りは、へら鮒がエサを積極的に食べる、活性の高い時期によく使われるポピュラーな釣り方です。



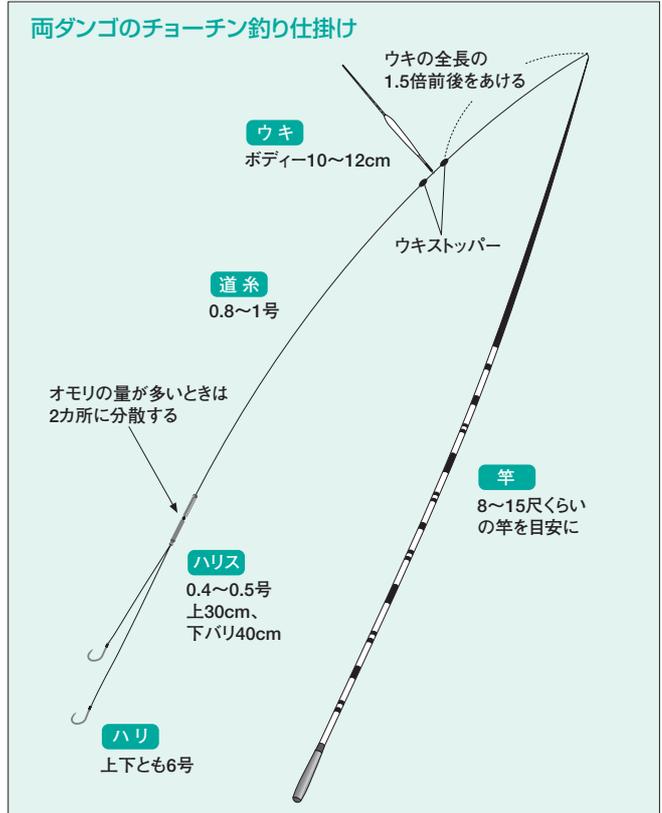
竿いっぱいのタナ(チョーチン)の宙釣り

竿の長さにかかわらず、竿の長さいっぱいの宙のタナを釣るのがチョーチン(深宙)釣りです。つまり、竿の長さが釣りをするタナになります。チョーチン釣りはウキが竿先近くにあるため、エサを遠くに飛ばす必要がありません。腕を伸ばして竿先から少し先の位置に静かにエサを着水させ、あとは竿を竿掛けに置けばOKです。

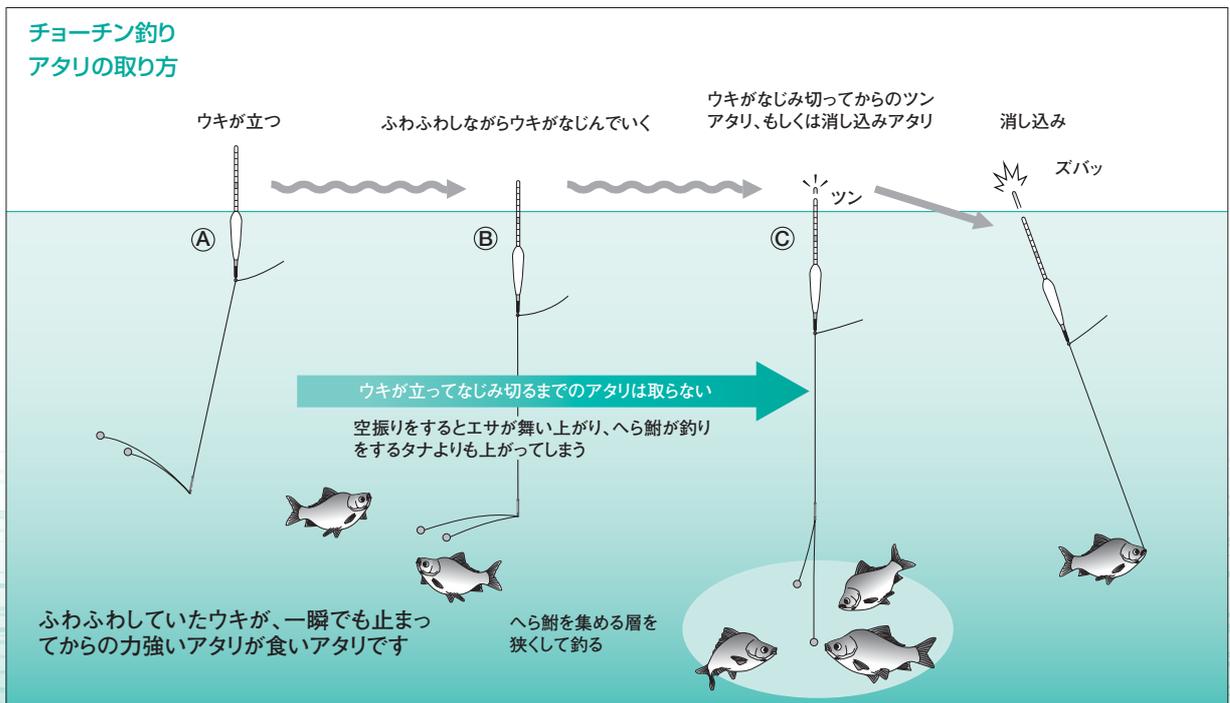
ところで、なぜこの釣り方がチョーチンと呼ばれるかというと、竿先近くにウキがある様子が提灯(ちょうちん)を持っているように見えることから、チョーチン釣りと呼ばれるようになりました。

仕掛けのセッティング

- チョーチン釣りの場合、使用する竿の長さにかかわらず、目安としてウキの位置が竿先からウキの全長の1.5倍前後にあるのがよいでしょう。
- 使用するウキの大きさは、ボディーが10~12cm。使用する竿が8~11尺なら、ウキは10~11cm。12~15尺なら11~12cmが目安になります。
- 竿が長くなるほど釣るタナが深くなるため、エサが沈むのに時間がかかります。そこで、エサをタナまで速く届けるためにオモリの量を増やします。当然、オモリの重量に耐えるためにウキも大きくなります。



- ハリスの長さは上バリ30cm、下バリ40cm。ハリは6号を目安にしてください。
- エサはタナまで持たせるために、直径が2cmくらいのおおきなエサをしっかり付けましょう。
- ウキがすぐに上がってきたり、なじみ幅が出ないときはエサがちゃんとタナまで持っていません。その場合は、エサを練り込んでネバリを出したり、さらに大きめのエサ付けで対処します。



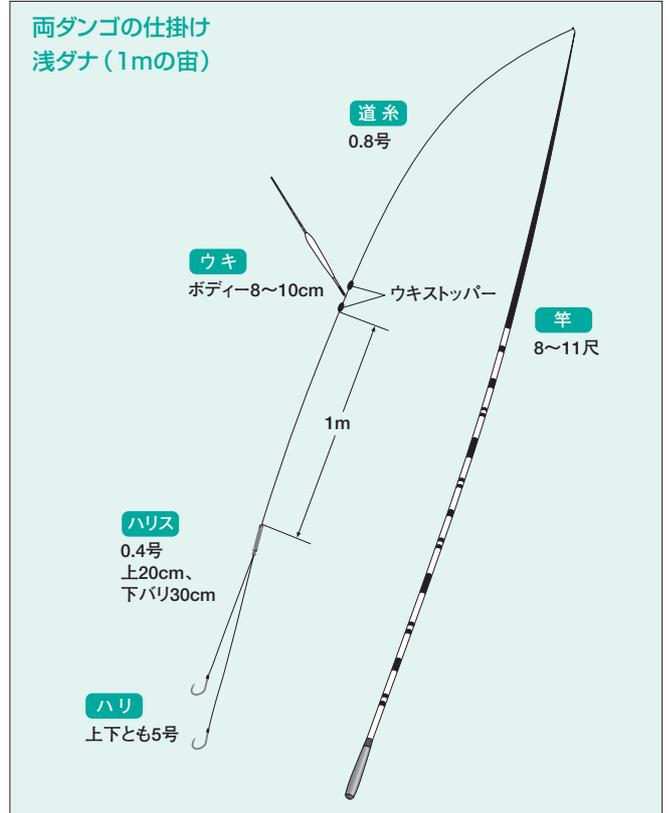


浅いタナ(1m)の宙釣り

釣り場の釣り規定で、ウキ止めゴムからオモリまでの距離が1mのタナを釣る、最もポピュラーな釣り方です。管理釣り場の多くが採用している規定で、1mよりも浅いタナは釣ってはいけません。

仕掛けのセッティング

- 使用する竿は8~11尺。魚の活性が高い時期、へら鮒はエサを求めて釣り人の足下まで寄ってくるので、短尺の竿で十分楽しめます。また、ウキが立ったときに道糸が張るように振り込むことが大切です。
- ウキのサイズはボディが8~10cm。ウキ下の距離が短いので、比較的オモリ負荷の小さいウキを選ぶことが重要です。
- ハリスの長さは上バリ20cm、下バリ30cmからスタートして、ふわふわしたウキの動き(サフリ)が出ないときは両方のハリスを5~10cmを目安に長くします。これでサフリが出たらハリスの長さはOKです。逆に魚の寄り過ぎなどでウキがなじまないときは、両方のハリスを短くします。これと同じことがチョーチン釣りにもあてはまります。ハリスの長さが決まったら、へら鮒が食ってくるまでエサを微調節します。
- ハリは上下とも5号を目安にしましょう。



浅いタナ(1m)の宙釣り アタリの取り方

